



技術史教育

第107号

2016.7.31

Education for History of Technology

第107号 目次

- 日本技術史教育学会2016年度総会・研究発表講演会開催報告……………田中 明美(1)
 日本技術史教育学会2016年度総会報告……………山館 順(2)
 第63回日本科学史学会年会シンポジウム報告……………小林 学(3)
 お知らせ・理事会議事録・編集後記……………(4)

【総会・研究発表講演会開催報告】

2016年度総会・研究発表講演会報告

2016年度総会・研究発表講演会実行委員会
 実行委員長 田中 明美(東京大学)

学会創立20周年記念 日本技術史教育学会2016年度総会・研究発表講演会が、2016年6月18日(土)、東京大学本郷キャンパスにおいて開催されました。総勢46名の方々にご参加頂き、学会創立20周年記念にふさわしい研究講演会になったと思っております。

今年は、伴野達也先生(東京大学)の「学生実験を通してみた応用物理学」と題した特別講演が行われました。約30年に亘り応用物理学実験に取り組んでこられた視点で、理学と工学の関係や、オシロスコープの活用などの具体例を交えながら、実験の底流に流れている重要な概念の習得の面白さなどについて、ご講演頂きました。ご参加の皆様も、大いに頷いたり、苦笑いをされたりしたようです。そして、22件の一般研究発表講演が以下の通りに行われました。

《研究発表講演(1)技術史・技術文化史Ⅰ》

- (1)「明治期に建てられた東京帝国大学旧図書館製本所:栄螺山製本所と赤門脇製本所」○野村悠里、(2)「八田與一と祖国日本」○武長玄次郎、(3)「渡邊嘉一と鉄道誕生の知見-鉄道建白書の谷陽卿と神長倉眞民の経歴」○三浦基弘、(4)「鉄道省における電車制御器の国産化と標準化」○真保光男、(5)「文学者の捉えた「技術」その二 内田百閒と海軍機関学校」○山館順

《研究発表講演(2)技術史・技術文化史Ⅱ》

- (6)「南インドのNilgiri Abt式登山鉄道の実地調査研究」○下間頼一・塩津宣子、(7)「南インドのドラヴィダ文化の岩窟寺院群の実地調査研究」○塩津宣子・下間頼一、(8)「インダス文明遺跡の実地調査研究-インドのドゥーラヴィーラー遺跡-」○渡部紘一、(9)「釣車と弍射-釣車の起源を中心にして-」○佐々木堯、(10)「生体分子の1分子計測技術史-1分子生物学から生体機能を探る技術-」○田中明美・富重道雄、(11)「戦後復興期における青年期教育の検討-地方改良運

動と教育の位置付けに着目して-」○佐野浩

《研究発表講演(3)工業技術・工学教育》

- (12)「新たな技術者倫理教育の枠組み構築の試み-学生の思考変化の理由-」○小野寺英輝、(13)「杉山六郎氏引率による地域住民の南千住産業遺産ウォーキング」○吉田喜一、(14)「EVを用いたエネルギー教育のための計測システムの変遷」○斉藤純・小原宏之、(15)「ブータンと日本の技術交流小史(第4号)ブータンの技術教育制度と職業訓練制度の一考察」○白井一、(16)「全方向移動ロボットの設計・製作からみたものづくり教育の一考察-基礎・基本となる技術・技能に関する分析-」○日高義浩・永野雄作・佐藤雅紀、(17)「3次元測定データを用いた鋳山用回転臼の重心位置推定」○久間英樹・森内敦史・幸田憲明・福岡久雄・小松美鈴

《研究発表講演(4)科学教育・教育史学教育》

- (18)「アストラーベとクォードラントの数理と機構-平面天球盤天文時計に見る数理科学と技術数学の起源-」田中道彦、(19)「ガンター・クォードラントから学ぶ暦と時の世界-日影時計・星時計・天文時計の発達と季節・時刻・方位の認識-」○田中道彦、(20)「固有値、固有ベクトルの理工学と経済数学における理解の違い-コンピュータ時代のデジタル解析幾何学を目指して-」○西川利男、(21)「機械製図の文化の変革に関する研究-第14報 製図の文化・製図論について(その1)-」○平野重雄・喜瀬晋・関口相三・奥坂一也、(22)「新井用水周辺に築造された「ため池」群の特徴-新井用水開削に関連して-」○南正晴・塩津宣子・下間頼一

地道に時間を掛けて取り組まれている研究に加えて、新しい切り口の様々な研究が一同に会し、分野専門を超えた意見交換がされました(本学会のポテンシャルの深さ、恐るべし!)。最後になりましたが、ご尽力頂きました先生方に深くお礼申し上げます。

日本技術史教育学会 2016 年度総会報告

山館 順(本学会総務担当理事)

2016年度総会は2016年6月18日(土)に東京大学本郷キャンパス内の工学部6号館3階セミナールームAにて開催された。総会参加会員人数は37名、田中明美実行委員長による開会後、議長団選出に移り、議長吉田喜一、書記穂積洋一の両氏を選出、以下の順に議事進行した。

・審議事項1 2015年度事業報告が堤理事によりなされた。2015年6月27日(土)上智大学四ッ谷キャンパスにて武藤康彦実行委員長により総会開催。全国大会は同年12月5(土)-6(日)両日足利工業大学にて牛山泉実行委員長により開催された。関西支部総会・講演会は2016年3月5(土)-6(日)両日に大阪産業大学梅田サテライトキャンパスにて開催された。国際会議は日中間の国際関係変化により開催留保した。学会誌とニュースターの発行、他学協会との関連事業、また「功績賞・業績賞」「優秀講演論文賞」の候補者を募り、審査と表彰を実施した。一般社団法人化についてはこれを見送ることとした。

・審議事項2 会計報告が堤理事によりなされた。印刷・製本費の増加があり、その理由はニュースター発送時に同封物が増え、また学会誌の頁数が増えた事、在庫切れにより新たに学会封筒を作成した事による。

・審議事項3 監査報告が田中道彦監査事よりなされた。事業報告・会計報告・監査報告いずれも会場より質問なく承認された。

・審議事項4 2016年度事業計画案が堤理事により説明された。総会は6月18日に東大本郷キャンパス工学部6号館3階セミナールームAで開催。全国大会は同年12月松江での開催計画の準備が報告された。関西支部見学会・総会・講演会は2017年3月に開催予定。国際会議に関しては、「機械設計・機械技術史国際会議」を本学会20周年の記念事業の一環として開催に向けた準備を進める事、東アジア全地域を視野に入れた国際会議開催を検討中であることが報告された。また学会規約による日本技術史教育学会「功績賞・業績賞」「優秀講演論文賞」の候補者を募集、審査と表彰を実施すること、日本学術会議、科学技術振興機構等からの要請に対し事業協力を行う事、他学会からの要請により高度な学術支援を行う事が報告された。2016年度事業計画に対する質問はなく全てが承認された。

・審議事項5 2016年度全国大会関連 渡部紘一関西支部長より以下の報告があった。2016年12月10-11日両日に島根県松江市で開催すべく準備中。10日研究発表講演会、11日見学会の予定、特別講演は松江歴史館の藤岡大拙氏に依頼中。

・審議事項6 渡部紘一関西支部長より以下の報告があった。関西支部総会関連役員改選があり、(敬称略、ニュースター号106号で報告済)支部長渡辺紘一、総務中辻武、企画南正晴・佐々木堯、会計塩津宣子、顧問下間頼一・林和宏、監査佐野浩、2017年3月上旬に総会・研究講演発表会を予定。

・審議事項7 2016年度予算案について堤理事より報告がなされた。印刷製本費用を経費増により多少増額する。編集費用は圧縮する。「昨年度実績に対して今年度の論文集の印刷製本費は足りるのか?」との小林学会員の質問に対して、論文投稿数による頁数増減があり読み

切れないが、柔軟に予備費で対応する旨の回答が堤理事よりなされた。他に質問なく2016年度予算案は承認された。

・審議事項8 国際会議関連について平野理事より報告がなされた。20周年の年度内に開催できるよう前向きに検討中である事。平原国男会員より中国以外のアジア圏の国々との学術交流は検討しているのか?また白井一会員よりモンゴルから学術交流の話があるとの発言があった。これらに対してアジア全地域を視野に入れて検討しており、また(日中)機械設計・機械技術史国際会議と銘打っているが、名称を変更するのであれば機械設計・機械技術にこだわらずに検討するとの平野理事よりの回答があった。

・審議事項9 次期役員候補者案が担当理事より提出されなかったため、現理事(会長並びに辞任表明の2名を除く14・15年度の理事)に再任願いたいとの提案があり、異議なく承認された。この際、担当理事より会長に関して規約上会員の互選としており、この場でどなたか推薦してほしいとの提案があった。これに対して白井一会員より理事会から事前に提案をすべきであり、提案がないので検討できないのでは?下間頼一顧問から現理事の中で経験の長い方に会長代理をお願いし、理事会を開催して遅くとも全国大会までに新会長を選出すべき。林和宏現会長から、理事会に時間的猶予を与え、新会長を選任し、会員の承認を取ることにについて承認をお願いしたいとの意見がそれぞれあった。結果として理事会で対応すべきこととなり総会の承認となった。

・審議事項10 その他小林学氏より日本科学史学会とのシンポジウム報告がなされた。また財政緊迫により2016年度全国大会から研究講演発表会の参加費を現行2000円から3000円への値上げが提案され採択、承認された。

2016年度功績賞・業績賞については該当者なし。優秀講演論文賞については、三浦基弘氏・武長玄次郎氏・佐野浩氏・佐藤和敏氏の4名が受賞された。又、学会創立20周年記念特別表彰として、学会創立時より在籍されている会員38名と賛助会員2団体に表彰状が贈られた。

これをもって2016年度総会は閉会し、引き続き表彰式に移り、林会長より受賞者に表彰状が授与された。

【2015年度決算書・2016年度予算書】

2015年度決算書並びに2016年度予算書に関しては、紙面の都合上別紙にて同封いたしました。ニュースター第107号と一緒に保管をお願いします。



第63回日本科学史学会年会シンポジウム報告 「日本における技術史研究の現状と展望」

小林 学(千葉工業大学)

去る2016年5月28日工学院大学新宿キャンパスにて、日本科学史学会75周年記念第63回年会シンポジウム「日本における技術史研究の現状と展望」が日本技術史教育学会の共催で開催されました。このシンポジウムの開催のために、工学院大学の林 真理先生、広島大学の市川 浩先生、木更津高専の武長 玄次郎先生に大変にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

私は、コーディネーターとしてシンポジウムを組織しました。私の問題意識として、国内外の多くの技術史関連の研究の動向を網羅することは、個人の限界を超えているということがありました。日本技術史教育学会と日本科学史学会の連携が、細分化する技術史研究を協同する一つのきっかけになればと考えました。

日本技術史教育学会の沿革や技術史教育の意義を日本科学史学会会員に紹介すること、技術史教育の実践、経営史・経済史における技術史研究の位置づけ、アメリカの技術史の動向、また近年のインターネットの発展を全技術史にどのように位置づけるか、さらに今後の技術史研究の課題について論じていただく目的でプログラムを組みました。残念ながら吉田先生のご発表は急遽都合がつかなくなり、キャンセルになりましたが、このシンポジウムの内容は日本科学史学会和文機関誌『科学史研究』に掲載する予定です。その際には、吉田先生にもご執筆いただきたいと思います。

シンポジウムのタイトルと講演者は次の通りです。

- ・シンポジウム開催の趣旨 小林 学
- ・日本技術史教育学会の沿革と展望
牛山 泉・堤 一郎
- ・技術論と技術史そして高専教育 吉田喜一
- ・経営史と技術史研究との関連 田口直樹
- ・コンピューティング史の動向 喜多千草
- ・技術史研究の課題 木本忠昭

シンポジウムの参加者は50名以上はおられたと思います。ある聴衆の方から「チャレンジな試みで大変興味深かった」という旨のご意見いただきました。

各発表者の具体的な発表内容を私は指定したわけでないのですが、問題意識としては、技術史研究の目的と方法論という、ある一定の共通点があるように思いました。技術史教育の意義、技術のデュアルユースの問題(個人的には核兵器・原子力について

整理が必要と考えています)、生産現場における情報技術の活用、技術者と技術史研究者との関係、技術発達における内的要因と外的要因との区別と現実社会の問題を分析するナイフとしての技術史の役割が再認識されたと思います。

また、シンポジウムを通じて技術史分野の細分化の弊害がいつそう明快になったようにも思います。そもそも学際領域である技術史も、今やちょっと専門が異なれば、とたんに研究内容が分からなくなってしまいます。どうして細分化が進むかといえば、主だった研究対象に多くの先行研究がある一方、新史料の発見はなかなか進まないため、同じ史料を使いながらも、これまでにない違った見解を出さなければ研究として成り立たないからです。そのためには歴史観と方法論が必要です。歴史観と方法論の貧困は、社会から求められる研究ではなく、単にまだ調べられていない主題や人物に技術史研究者を向かわせませす。さらに、歴史観と方法論の貧困が、クロノジカルな歴史記述を生み出します。我が国における技術史研究は、歴史観と方法論の貧困とクロノジカルな歴史記述から完全には脱し切れていないように思えるのです。

このシンポジウムは、以上のような問題点をより鮮明にしたと思います。技術史研究者は、なぜその研究をするのかまた社会から何を要請されているのかを真剣に考えなければなりません。歴史観と方法論と書きましたが、これはこれまで技術論と呼ばれていたものに他なりません。

日本技術史教育学会と日本科学史学会との共催シンポジウムを、以上の問題に日本の技術史研究者を向かわせるきっかけにしていきたいと考えます。



日本技術史教育学会2016年度全国大会(松江) 開催案内と研究発表講演募集

2016年度全国大会(松江) 開催実行委員会
委員長 久間英樹(松江高専)

本学会2016年度全国大会を、2016年12月10日(土)~11日(日)(11日は見学会)に松江市で開催いたします。つきましては会員各位による研究発表を募集いたします。

◆会場:サンラポワーむらくも(島根県松江市殿町369、TEL0852-21-2670 JR松江駅から駅前2,3番乗り場でバス乗車10分、県民会館前下車すぐ)また本会場には宿泊施設もあります。宿泊を希望される方はお手数ですが各自で申し込んでください。

◆募集要領:講演発表希望の会員は、ホームページから研究発表申込用紙をダウンロードして記入し、研究発表申込専用メールアドレス(happyyou.jseht@gmail.com)にメール添付でお申し込みください。ダウンロードできないときは、A4判用紙に以下の項目を記入し、学会事務局へ封書でお送りください。申込用紙ダウンロード

URL:http://homepage3.nifty.com/jseht/

- 1)講演題目:主題、副題
- 2)講演者名:登壇者に○印(会員に限る),所属名(およびその略称)
- 3)申込者連絡先:〒・住所・TEL/FAX・E-mail
- 4)キーワード:5つ程度
- 5)使用機器:液晶プロジェクタ(パワーポイント,キートン,PCは各自持参)。書画カメラ・OHPは準備できません。

なお、受付後の講演題目と発表者名の変更は認められません。講演原稿執筆時に十分ご注意ください。

- ◆研究発表申込締切:2016年10月11日(火)17時必着
- ◆研究発表講演原稿提出期限:2016年11月10日(木)17

時必着(ともに期限厳守)申込から原稿提出まで時間的余裕がございませんが、ご理解ください。

◆講演資格:講演発表は「2016年度会費納入済」の会員であることが前提です。

◆今回の全国大会では地元研究者の発表を数名予定しています。そのため申し込みの方におかれましては、同一講演者の場合は一件のみの申し込みでお願い致します。

◆学会事務局:〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-5 小安ビル6階(株)プラス・ワン気付,日本技術史教育学会事務局 2016年度全国大会実行委員会宛。TEL/FAX:03-3835-2494(電話対応は毎週火曜日のみ,FAX常時受付)。

◆開催校連絡先:松江高専電子制御工学科教授 久間英樹(クマヒデキ)Tel:0852-36-5488(直通)

Fax:0852-36-5488 e-mail:kuma@matsue-ct.jp

特別講演 平成28年12月10日(土)13:00~14:00

演題「国宝松江城築城への軌跡」松江歴史館館長 藤岡大拙(フジオカ タイセツ)氏

見学会予定(変更もあります)

平成28年12月11日(日)9:00~16:00

松江歴史館・松江城・堀川遊覧(松江城堀)・小泉八雲記念館・神魂(カモス)神社・八重垣神社を中心に見学会予定

◆全国大会プログラム、見学会等の詳細はニューズレター第108号と本学会ウェブサイトに掲載いたします。

◆その他、全国大会参加費3,000円

【 理事会議事録 】

◆第142回(通算188回)理事会

日時:2016年5月21日(土),15:00~18:00,場所:東京大学工学部6号館1階103教室,出席者:林・平野・堤・武長・山館・田中(明)・穂積

議題 0) 前回(第141回)議事録承認,1)各部門報告<総務(会員動向、会費関連、HP更新)、編集(学会誌、NL編集関連)、企画(2016年度総会準備、2015年度関西支部総会報告、国際会議関連)>,2)その他(20周年記念事業,3)次期理事候補者に関して,4)2015年度表彰者選定,5)次回理事会日程未定

◆2016年度第1回臨時理事会

日時:2016年5月21日(土),15:00~18:00,場所:東京大学工学部6号館1階175教室,出席者:林・平野・堤・武長・佐野・田中(明)・穂積

議事 1)2016-17年度理事に関して,2)2016-17年度会長選任に関して,3)次回臨時理事会:8月29日15時か

ら(会場未定)

【 お 願 い 】

技術史教育学会誌第17巻第2号の修正に関するご案内を同封いたしました。記載に従って各自で訂正箇所を切り貼りをしていただければと思います。お手数をお掛けいたしますがよろしく願います。

【 編 集 後 記 】

臨時理事会開催の都合で本号の発行が遅くなりました事お詫び申し上げます。新会長・新理事にしまして本号で何かしらの報告をと思っておりましたが、現在調整中につき報告ができません事、重ねてお詫び申し上げます。一日でも早く解決し、学会の運営を進めて行くと共に、会員の皆様に安心して研究活動に励んでいただきたいと考えております。ご迷惑をお掛けいたしますが何卒よろしく願います。(穂積洋一)

日本技術史教育学会ニューズレター 第107号

2016年7月25日 印刷

2016年7月31日 発行



技 術 史 教 育

Education for History of Technology

発行者
編集

日本技術史教育学会 会長 林 和 宏
日本技術史教育学会
(株) プラス・ワン気付 日本技術史教育学会 事務局
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-12-5 小安ビル6F
TEL/FAX: 03-3835-2494
E-Mail: jseht@nifty.com